

県と佐世保市が東彼川棚町に計画している石木ダムの最大の目的は、同市の慢性的な水不足解消。だが、市が新規水源の必要性的根拠としている将来の水需要予測について、妥当かどうかの議論が続いている。予測に基づき、ダム建設で新たに1日4万トンの確保が必要とする市。ダム不要と訴える側は「予測は過大で『ダムありき』の内容」と批判している。

佐世保支社 山口 恭祐、佐崎 智章

報道 プリズム

5万5千トンを取水する権利を持つことができる。

新たに4万ト目標

同局は将来、佐世保地区(合併前の旧佐世保市内)で1日11万7千トの水が必要と予測。今も安定的に水が取れる1日7万7千トに、ダム完成で4万トが加われば、不安定水源を解消し、水洗化の進展などに伴う新規需要にも対応できるとする。市が使える貯水量は644万ト(75日分)から893万ト(105日分)に増えるという。

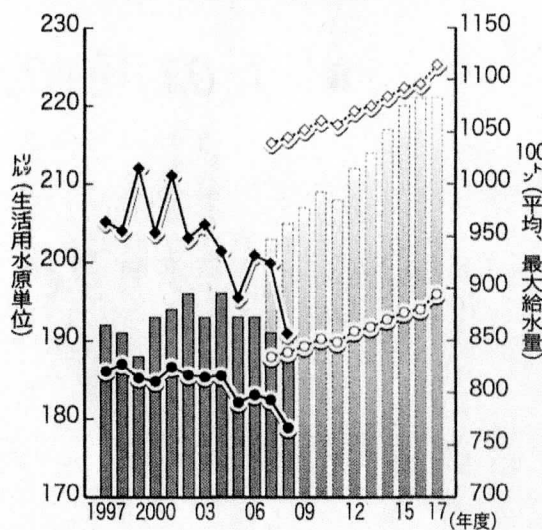
原因は不安定水源
市水道局によると、同市は山と海に近い地形から、雨水がすぐに海に流れ込み、大きな川もない。水源は6カ所の小さなダムと川からの取水に頼っている。新たなダム建設の適地は市内にはないとしている。

市が水を取ることができ、水源(水利権)は現在、1日10万5500ト。しかし、うち2万8500トは雨が降らないと水が取れなくなる川の「不安定水源」。同局は不安定水源の比率が大きいが、水不足がたびたび起きる最大の原因としている。

このため、隣町での石木ダム建設で、足りない水を補うことを考えた。石木ダム計画では、総貯水量548万トのうち249万トが市の使える水。ダム完成で市は川棚川で新たに1日最大4万ト、既存分を合わせ

石木ダム計画を問う② = 利水編 =

佐世保市水需要予測の推移



1日最大給水量(実績)
1日最大給水量(推計)
1日平均給水量(実績)
1日平均給水量(推計)
生活用水原単位(実績)
生活用水原単位(推計)
(佐世保市調べ)

「需要予測」

市の計算を疑問視
反対派の反論は主に▽過去の実績に比べ水需要予測自体が過大▽漏水防止など市水道局の水源対策が乏しいの2点に集約される。生活用水原単位は08年度までの12カ年、1996〜1998の間で推移。にもかかわらず、予測では17年度221トと今後9カ年で大幅に増加することになっている。同様に過去、8万ト前後にとどまってきた1日平均給水量は17年度9万ト近くに。9万ト台を中心に推移してきた1日最大給水量も11万ト超に増える。市水道局の小川幸男事業部副理事(水源対策担当)は「生活用水原単位は今より何割増加するかでなく、水道施設設計指針に沿った計算した結果。同規模他都市と比較すればむしろ低い数字」と適正さを強調。実績との差についても「渇水の

浴槽の水をポンプで洗濯機に移しながら「渇水の体験があるからこそ市民は節水に協力している」と話す市田さん

佐世保市黒髪町



市民の声

認定申請

佐世保市の慢性的な足の解消が目的の石木ダム。市民は渇水や石木問題をどう考えている。市民宅を訪ねた。梅田町の前田稔子さんは、洗濯機に備えつけた水を浴槽にのぼし、残りを上げるのが日課。花水の水やりには米のを使うなど節水に取り

安定供給

